

= 受賞 =

機械工学科、鈴木聡一郎准教授が平成 21 年度 日本スポーツ産業学会賞を受賞

(機械工学科)

このたび、本学機械工学科准教授の鈴木聡一郎先生が、日本スポーツ産業学会より平成 21 年度学会賞を受賞されました。

日本スポーツ産業学会は、スポーツ産業が国民の人間性の開放、豊かな生活の発展、および社会福祉の向上に貢献することを求めて、スポーツ産業をめぐる課題を科学的に明らかにし、課題解決へむけた知見を得る活動をすすめていくために設立された学会です。スポーツ産業という極めて実践的な事象を研究対象とすることから、産業界、官界、学界はもとより、スポーツ界、スポーツ消費者にも参加を呼びかけ、各界の共同により運営を進めていく新しいタイプの学会として活動が進められております。内部には7つの分科会があり、鈴木准教授が活動するスポーツ工学専門分科会もそのひとつです。

また学会賞は、学会が発刊する論文誌である「スポーツ産業学研究」の中から、優れた成果が認められた論文に贈られる賞であり、今回は鈴木准教授の「骨格に基づくスキーブーツ設計に関する基礎的検討」が選出されました。

この研究は、スキー産業界ならびに積雪寒冷地域の経済活性化を目的として、スキーブームの再興のため、日本人アルペンスキー選手が世界的に活躍するためのスキーブーツ設計を検討したものです。

この研究では、選手の滑降タイムとターン中の下肢の内傾角度との間に強い相関があることを示したうえで、日本人と欧米人の骨格の違いに着目し、数値解析やモーションキャプチャなどの工学的手法を用いて、現在主流のヨーロッパ製のスキーブーツでは日本人選手が不利になることを明らかにしました。さらに、スキー競技で日本人が欧米人と対等に戦うためには、ターン時の下肢の内傾角速度を向上させることが重要であることを示し、内傾角速度の向上とともに、選手ースキー系の最大傾斜線方向の運動エネルギーを効率良く向上させることが可能な新たなアッパーシェル設計を明らかにしています。スキーブーツに関する工学研究は国内外においてほとんど例がなく、新たな発想に基づく先駆的な研究成果が認められ、受賞されたものです。



← 表彰式にて学会長滝鼻卓雄氏（読売ジャイアンツ代表取締役オーナー）とともに



↑ 日本スポーツ産業学会賞賞状